

本授業の主張点

本授業では、同じ旋律が18回繰り返されている楽曲を聴きます。繰り返しの中にある変化を構造図を使って話し合い、その変化の面白さを感じ取っていく児童の姿をめざします。

1 題材名 くり返しても おもしろい!?

【反復、変化】

2 題材の目標

○ 反復、変化が生み出す効果を感じ取りながら音楽を表現し、鑑賞できる。

3 評価規準「学力デザイン レベル3より」

評価の観点	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
評価規準	反復、変化に気付き、進んで音楽活動に取り組もうとしている。	反復、変化が生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、どのように反復や変化を組み合わせて表すかについて思いや意図をもち、音楽づくりをしている。	反復、変化を組合せ、音楽として構成している。	反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴やよさを理解し、聴いている。

4 題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級は、音楽活動を楽しみ、意欲的に取り組もうとする児童が多い。鑑賞活動は、表現活動が得意ではないと感じている児童にとっても、楽しんで活動できるものとなっていて、38人中25人の児童が鑑賞活動をとっても好き、あるいは好きであると答えている。

鑑賞活動の際は、音楽の構成要素を手掛かりに音楽を構造に基づいて分析するようにしている。その中で、自分が知らなかった音楽的な知識や音楽の構造や仕組みがもたらすよさを知り、そのことに面白さを感じている児童もいる。反面、それまでの表現活動を楽しんでいても、音楽の構造に基づいて分析することを難しく感じる児童もいる。

児童は、音楽における反復や変化について、いろいろな教材を通して学習をしてきている。しかし、それは主に旋律が繰り返されることによる反復や旋律が変わったことによる変化であり、同じ旋律の反復の中での変化については取り扱っていない。

(2) 題材の意義

本題材は、反復、変化の2つの音楽の構成要素を意識的に聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら音楽活動をすることをねらいとしている。反復も変化も、ほとんどの楽曲で見られる音楽の手法であり、楽曲の構造を考える際には、よりどころとなるものである。学習指導要領においては、共通事項として取り扱うべき音楽の仕組みとして示されている。本校の学力デザインでも、「主題を素材としてまとまりのある美しさ、統一を保ちながら曲は変化、発展することを感じ取る」に当たる。

本題材における変化は、旋律が変わることで生み出されるものと、旋律は同じでありながら旋律以外の音楽の構成要素の変化により生み出されるものの2つである。特に、旋律は反復しつつ、その中で音楽の構成要素の関わりが変わることによって起こる変化の面白さを感じ取らせたい。その変化が、何によって生み出されているのか、そしてそのような音楽のよさを理解し、それに対して自分の考えをもつということは、中学校に向けても必要な事と考える。この題材は、中学校へとつながる学力デザインのレベル4「音楽それ自体の美しさ（音の使い方や構成の美）を追求する、絶対音楽があることを知る」へと発展していくものである。

(3) 指導上の着眼点（視点の具体化の側面から）

本研究の視点「音楽の感受を高めるために、音楽を構造に基づいて分析する場を設定する」において、児童に捉えてほしいことは、以下の2点である。

- ・ 反復の中にも変化があり、それは音色や強弱、速さなど他の音楽の構成要素と関わっていることに気付くこと。
- ・ 反復、変化から生み出される音楽のよさや面白さを分かること。

そこで、本題材では、第1次、第2次において、歌唱、演奏、音楽づくりの表現活動を通し、様々な楽曲に表れる反復、変化を感じ取ったり、工夫して表したりする活動を仕組み、反復、変化を体験的に知り、その特質やよさを分かるようにしていく。

第3次である本時では、第1次に学習したことを生かし、反復に焦点を当て、音楽の構造を帯状のものに図式化することで、視覚化する。そして、その反復の中にも変化があることに気付かせる。その気付きを基に、更に構造を考える。反復の中にある変化を生み出しているものは何なのか、それによってどのような効果が感じられるかについても、今まで学習してきた音楽の構成要素を基に考えさせていく。それらの気付きなどは、構造図を使いながら視覚化していく。考える際には、まずは個人で考え、それをグループで出し合い、話し合っていく。その過程の中で、構造に基づいて分析することを難しいと感じている児童も分析する際の観点を得、自分の考えをもつことができる。その後、全体でも話し合っていくことで、自分の考えを確かなものにし、自分にはなかった見方や考え方に気付いたりすることになる。反復の中にも変化があり、それが、楽曲の面白さになっていることに気付き、その工夫のよさを知ることになっていく。また、このように音楽のよさなどについて思考していくことは、中学校において学習指導要領でも打ち出されている「その（音楽の）よさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する」ということ、「根拠をもって自分なりに（音楽を）批評することのできるような力の育成を図るようにする」ということにつながるものである。

5 教材について

教材曲A	こいのぼり	文部省唱歌
教材曲B	いつでもあの海は	佐田和夫 作詞 長谷部匡俊 作曲
教材曲C	静かにねむれ	武井君子 訳詞 フォスター 作曲
教材曲D	ぶんぶんぶん	村野四郎 訳詞 ボヘミア民謡
教材曲E	きらきらぼし	武鹿悦子 作詞 フランス民謡
教材曲F	ちょうちょう	作詞者不明 ドイツ民謡
鑑賞曲G	山の魔王の宮殿にて（「ペール・ギュント」組曲第1番より）	グreek作曲

教材曲	形式	内容
A	二部形式 A (a+a') + B (b+b')	5年の共通教材であり、児童にとっては既習のものである。
B	二部形式 A (a+a') + B (b+c)	5年での合唱の既習曲である。二部形式の楽曲であるが、教材曲Aとは後半部のBが違う。
C	二部形式 A (a+a') + B (b+a')	5年での合奏の既習曲である。教材曲A、Bとは後半部のBが違う。
D	三部形式 a+ b +a	児童になじみがあり、反復が分かりやすく、演奏が簡単なことから、音楽づくりの素材として、適している。
E	三部形式 a+ b +a	
F	二部形式 A (a+a') + B (b+a')	

鑑賞曲Gは、劇音楽としてつくられた中の1曲である。主人公ペールが山の魔王の宮殿から脱出する場面で用いられる。教材曲A～Fは、児童にとって捉えやすい旋律の反復と変化を扱っている。しかし、鑑賞曲Gではほぼ同じ型の旋律がずっと反復されるが、一つ一つは主旋律を奏でる楽器、楽器の組み合わせ、強弱など旋律以外の音楽の構成要素が、変化を感じさせるものとなっている。そして、その変化によりペールの心情や状況がよく表されている。反復、変化について、今までとは違う見方ができる楽曲である。

6 指導計画 (全4時間) (は視点)

次	時	教材	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1	1	ABC ↓ ↓ ↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">音楽の中のくり返しのわけを考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> 教材曲A, B, Cを歌ったり演奏したりすることで、音楽の構造を考える。 音楽の反復、変化の効果を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材曲A, B, Cの楽譜を見ながら歌ったり、演奏したりさせることでの音楽の構造を明らかにしていく。 教材曲A, B, Cの中で反復になっている所と変化がある所の違いを話し合わせることで、反復と変化のよい所やそうではない所を感じられるようにする。 反復と変化にはどのような効果があるのか理解できるように、それまでの発言や板書を基に、教材曲A, B, Cの歌唱や演奏をしながら、まとめていく。 	ア
2	2	DEF ↓ ↓ ↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">くり返しのある音楽をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> 教材曲D, E, Fの一部を使い、反復と変化を生かして音楽をつくる。 ペアでアドバイスし合う。 アドバイスを自分の音楽に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 反復と変化をどのように組み合わせて音楽をつくと面白いものになるか考えやすいように色の違うカードやワークシートを用意する。 反復と変化による面白さが表れているかをアドバイスの際のポイントにさせることで、音楽の反復と変化における効果の現れを図る。 反復と変化の効果が表れるような音楽になっているか友達のアドバイスを基に振り返らせ、よりよい音楽になるように助言する。 	ウ
	3	↓ ↓ ↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">つくった音楽をきき合おう</div> <ul style="list-style-type: none"> グループの中でつくった音楽を紹介し合い、反復と変化がどのように表れているのか話し合う。 自分の音楽の見直しをする。 クラス全体の場で聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 3, 4人のグループの中で、それぞれのつくった音楽を反復の表れを確かめさせながら聴き合うことで、自分の音楽の見直しにつなげる。 話し合いで出た意見を生かして、反復と変化の表れ方を見直すように働きかける。 反復と変化の表れ方を目で見て確認できるように児童のつくった音楽の楽譜を拡大投影機で提示する。 聴き合わせることで自分とは違った工夫や面白さを知ることにつなげる。 	イ
3	4 (本時)	G ↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">くり返しの音楽をきき、おもしろさのわけを考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞曲Gを聴き、反復を基に楽曲を構造化する。 反復が、どのように展開され、変化しているか考える。 考えたことを基に、グループで話し合う。 クラス全体で、反復の中に表れている音楽の要素の変化を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が聴取したことを図を使って整理していく。 反復の中に表れる変化を基に、大きなまとまりをとらえ、それを図に書き加えられるようにワークシートを用意する。 音楽を聴きながら自分達の考えが確かめられるようにグループごとにCDラジカセを用意する。 反復の中に表れる音楽の構成要素の変化や、その変化から生み出される面白さや効果が明らかになるように児童の発言を板書していく。 	エ

7 本時の指導 (本時 4 / 4)

(1) 目標

鑑賞曲Gにおいて、反復の中にも変化があり、それが曲想を生み出し、楽曲の面白さやよさになっていることを理解しながら聴くことができる。 [鑑賞の能力]

(2) 展開

ゴシック・・・視点に関わる音楽の構成要素

学習活動	教師の働きかけ (○) と形成的評価 (◆)
1 学習のめあてを知る。	○ 自分たちのつくった音楽を振り返らせることで、 反復 ばかりでは音楽的に面白くないことを確認する。
くり返しの音楽をきき、おもしろさのわけを考えよう	
2 反復に着目し、鑑賞曲Gを聴く。 ① 反復が何回表れるか、数えながら聴く。 ② 反復の中に出てくる変化について考える。 ③ グループの中で考えを出し合う。 【予想される児童の反応】 ・楽器がどんどん増えているよ。 ・バイオリンの音も入ってきたよ。 ・途中から打楽器も出てきたよ。 ・最後は、いろいろな楽器の音ができるよ。 ・始めはとても音が小さかったけど、どんどん音が大きくなっていったよ。 ・最後は、どんどん速くなっていったよ。 【予想される構造図】	○ 楽曲の中で 反復 がずっと繰り返されていることに気付かせるために、新たな 反復 がはじまったら手を挙げさせたり、数字のカードを提示したりする。 ○ 鑑賞曲Gに表れる 反復 を帯状の構造図で表すことで視覚化し、黒板に提示する。 ○ 反復の中に表れる変化を基に更に楽曲を構造化できるように、ワークシートを用意する。 ○ 音楽を聴きながら自分達の考えが確かめられるように、グループごとにCDラジカセやイヤホンを用意する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 反復の中に表れる変化に気づき、それがどのような音楽の構成要素の変化によるものなのか考えることができる。 (発言・ワークシート)</p> <p>A 反復の中に表れる音楽の構成要素の変化に気づき、その効果や面白さを感じ取っている。</p> <p>B 反復の中に表れる変化がどのような音楽の構成要素の変化によるものなのか気付いている。 →それによって、どのような音楽の面白さが生まれているのか問いかけ、考えられるようにしていく。</p> <p>C 反復の中に表れる変化がどのような音楽の構成要素の変化によるものなのか気付くことができない。 →大きく曲想が変わる所を提示し、音楽の構成要素との関わりに気付けるようにする。</p> </div>	
3 鑑賞曲Gにみられる 反復 と 変化 の効果や面白さについて話し合う。	○ 音楽の要素の 変化 が生み出した効果をつかめるように、話し合いで出てきた意見を整理して板書する。 ○ 反復 の中にも 変化 があることで楽曲のよさが生み出されていることに気付けるように、話し合いで出てきた意見を整理して板書する。
4 本時の学習を振り返る。	○ 反復 の中でも音楽の構成要素を工夫することで面白さを出すことができることを知らせるために、同じ手法を用い作曲された15分以上の楽曲があることを知らせる。 ○ 本時の学習で学んだことを自分の言葉でまとめることで、学習したことの確かめができるように、記述を促す。

反復の回数	1	2	3	4	5	6	7
まとめ	I						
気づき	音がとても小さい ⇒ 音が低い ⇒ 楽器が少ない ⇒						